

澁澤榮一 しづはら 栄一 實業家。天保十一年二月十二日武蔵國生れ、昭和六  
 年十一月十一日没（八四〇―一九三二）。幼名市二郎、榮一郎、通稱篤大夫。  
 號青淵、青淵漁史、青淵漁夫等。父から「論語」を學び終生の指針と  
 する。一橋家小仕へ陸軍奉行支配調役小任じた。慶應ニ在徳川昭武小  
 隨行して渡歐、翌年歸國し靜岡小商法會所設立、明治二年大藏省出仕  
 五年大藏大丞、翌年辭して第一國小銀行の他、續々諸會社を創り經營  
 小當る。また東京商法會議所、東京銀行集會所、東京手形交換所等と  
 組織。子爵。

著書『昭皇の會略則』（明治四年九月大藏省）、『我半生の奮闘』（合  
 著・井上泰江編、明治四十二年十一月二十八日博文館）、『主誠と努  
 力』（修養園木部編、大正四年七月十日榮文館書房）、『新商道』（山  
 田延瀨輯、大正十一年十一月二十五日大法館）、『重大なる結果―對  
 米問題研究（附排日案と紳士協約）』（合著・岡本四郎編、大正十二  
 年五月二十日民友社）、『經濟隨想』（合著・東京朝日新聞經濟部編、  
 昭和二年五月七日日本評論社）、『日本のタウンセンド・ハリス君の  
 華讀』（昭和二年七月一日経言、自印）、『櫻井山陽先生百年祭記  
 念』（合著・阿部京孝編、昭和六年五月十七日山陽先生百年祭假事務  
 所）、『澁澤翁は語る―其生きたち』（昭和七年十月八日岡田純天編刊、  
 斯文書院發賣）、『青淵詩存』（敬二輯、昭和八年秋跋、無刊記）、  
 『樂翁八遺』（昭和十一年十一月十一日岩波書店）、『經濟と道徳』（  
 小貫修一郎編、昭和十二年二月二十八日澁澤翁頌徳  
 會）、『函夜譚』（述、長幸男校注、昭和五十九年十  
 一月十六日岩波書店「岩波文庫」）等。



- 文獻、生駒鞠太郎著『滋澤榮一評傳』(内題「男爵滋澤榮一傳」)明治四十二年一月(白有樂社)、  
 『青淵論語』(種茂集)白録』(大正十五年十一月序、東京印刷株式會社印)、  
 『上屋喬雄』滋澤榮一傳』(昭和六年十一月、千白改活社「偉人傳全集」)、  
 鈴木誠治編『政子爵滋澤榮一翁追憶講義録』(昭和七年四月、千八百協調會)、  
 KYUGORO OBATA 著 PAN INTERPRETATION OF THE LIFE OF VISCOUNT SHIBASAWA』(昭和十二年十一月十一日小畑久五郎刊、滋澤青淵翁記念會)、  
 幸田露伴著『滋澤榮一傳』(昭和十四年五月十二日、滋澤青淵翁記念會代表者理事長 齋藤誠之助刊。)  
 再刊、六月十日岩波書店)、  
 白石喜八郎著『滋澤翁と青淵白話』(昭和十五年十一月二十五日日本放送出版協會「ライオン新書」)、  
 明石照男編『青淵遊澤榮一』思想と言行』(昭和十七年七月、千五百滋澤青淵記念財團編輯社)、  
 山口平八著『法沢栄一』(昭和二十年二月二十一日埼玉。埼玉會堂文化會館)、  
 野依秀市編著『青淵法沢栄一翁小伝及び年譜』(昭和二十五年九月十五日興業文世界社)、  
 山口平八著『法沢栄一』日本民主經濟の先覺者』(昭和二十八年九月十日平凡社)等。